

日韓共同理工系学部留学生プログラム報告 (2011年4月～2012年3月)

副島健治

1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を、留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され、富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生（以下、「日韓生」とする）をのべ9人受け入れた。

2 2011年度の本事業による富山大学への学生配置について

富山大学の理・工学部の日韓生受け入れ可能数は各学科の合計で16人であったが、2011年度の日韓生の新たな配置はなかった。

3 富山大学配置の在籍日韓生

これまでに、第7期生までが本学の理学部・工学部から巣立って行った。2011年度の本プログラムの学部在籍者は第10期生2人（理学部1人、工学部1人）である。

4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

4.1 構成員

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れのための準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」（以下「日韓WG」とする）が2001年4月に立ち上げられ、若干のメンバーの交代を経て現在に至っている。

2011年度のメンバーは石川義和（理学部、日韓WGの長）、柿崎充（理学部）、宮武滝太（工学部）、加藤扶久美（留学生センター）、副島健治（留学生センター）、村崎美紀（学生支援グループ留学支援チーム、2011年4月～2011年5月）、朝野真（学生支援グループ留学支援チーム、2011年5月～2012年3月）で構成されている。ただし、宮武滝太は年度途中で学内異動があったため、2012年2月から鈴木賢治（工学部）に交替した。また、2011年12月までは、豊本光世（学生支援グループ留学支援チーム）が朝野真の代理として日韓WGの活動に加わった。副島がコーディネーターを務めている。

4.2 日韓WGのミーティング

2011年度は以下のように、日韓WGのミーティングが7回持たれ、日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の本学受入れ等について話し合われた。ミーティングにはWGのメンバーの他、必要に応じて2010年度、2011年度の「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」参加者も加わった。

○第32回（2011年度第1回）日韓WGミーティング

日時・場所：2011年5月11日（水）15:00 留学生センター長室

○第33回（2011年度第2回）日韓WGミーティング

日時・場所：2011年6月21日（火）16:30 留学生センター長室

○第34回（2011年度第3回）日韓WGミーティング

日時・場所：2011年7月7日（火）15:00 留学生センター長室

- 第 35 回（2011 年度第 4 回）日韓WGミーティング
日時・場所：2011 年 7 月 25 日（月）15:00 留学生センター長室
- 第 36 回（2011 年度第 5 回）日韓WGミーティング
日時・場所：2011 年 8 月 4 日（木）13:00 留学生センター長室
- 第 37 回（2011 年度第 6 回）日韓WGミーティング
日時・場所：2011 年 10 月 6 日（木）16:30 留学生センター長室
- 第 38 回（2011 年度第 7 回）日韓WGミーティング
日時・場所：2012 年 3 月 6 日（火）16:30 留学生センター長室

4.3 その他の活動

韓国ソウルで開催される「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」への参加者と日韓WGのメンバーの一部で、出発直前の最終打ち合わせを行った。

- 「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」直前最終打ち合わせ
日時・場所：2011 年 8 月 25 日（木）10:00 場所：留学生センター長室

5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が、2011 年度は下記の日時・場所で開催された。本学からは宮武滝太（工学部）、副島健治（留学生センター）が参加した。

- 日時：2011 年 7 月 1 日（金）13:00
- 場所：熊本大学 工学部 1 号館 2 階大会議室

6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、下記の日時・場所でフェアが開催された。このフェアには、日本の 37 の国立大学が参加した（資料展示のみの 3 大学を含む）。

- 日時：2011 年 8 月 28 日（日）9:30～17:00
- 場所：大韓民国国立国際教育院（韓国 Seoul 特別市鐘路区東崇洞 181）

本学からは柿崎充（理工学研究部理学系）、宮武滝太（理工学研究部工学系）、豊本光世（留学支援チーム）の 3 人が参加し、韓国大学生 2 人（本学経済学部 1 年生と江原大学校からの交換留学生）もボランティアで手伝った。

会場では、午前中全体に対する説明会と各参加大学の 1 分間スピーチが講堂で行われた後、午後、本事業（第二次）の採用候補者を対象として各参加大学のブースにおいて説明が行われた。本学のブースへは 13 人の訪問があった。

7 おわりに

本事業は 10 年計画で開始されたが、10 年を経たのちも「第 2 次事業」として継続されている。この事業における日本の国立大学への日韓生の配置は、これまで通り、日韓生候補生が「志望調査」でどの大学を望んだかによりほぼ決定され、受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が希望大学として選ばれるように努力しなければならないという形になっている。富山大学としても、日韓生が配置されるように努力したが、2011 年度は配置が得られなかった。

学内において日韓共同理工系学部留学生事業への参加の是非が費用対効果の観点から議論され始めていることとも相俟って、この事業による留学生の受入れを追求することに困難も少なくない。富山大学としては、全学的合意をもって、もし今後も日韓生の配置を目指すとするならば、大学としての国際戦略の観点から富山大学の将来像を考えた上で、全学をあげてのさらなる取り組みが望まれると言える。